

## 「第5回徳山ダム環境保全対策委員会」審議内容メモ

日 時：平成14年3月7日（木） 12：30～15：00

場 所：名古屋逓信会館 6階 菊の間

出席者：（委員）佐藤委員長、阿部委員、駒田委員、前田委員、松井委員、  
中村委員、水野委員、西條委員（abc順）  
（事務局）約40名

### 【審議内容等】

#### 1．前回（第4回）委員会の審議内容の確認

第四回委員会の審議内容を確認した。

#### 2．工事の進捗状況及び平成14年度の施工計画

平成14年2月末までの工事実施状況を確認した。

来年度（平成14年度）の施工計画と猛禽類の生息状況の関係に関する説明を了解した。

#### 3．プロジェクトの実施状況について

各プロジェクトの活動状況と今後の活動予定について、以下のように報告と審議が行われた。

ワシタカPT

1) CCDカメラ観察結果とその解析成果（巣材、餌の搬入状況等）の概要についての報告と審議が行われた。工事等の影響についても、今後分析して行くものとする。

2) 営巣環境解析の意図と実施について報告があり、了承した。

河川環境PT

1) 違法漁法監視と乱獲防止のための環境保全河川の設定が報告された。

2) 環境保全河川の趣旨を生かすため、警察等関係機関との連携を強化する。

3) 湛水後、生息が困難となる底生魚の「お魚引越し大作戦」の実施について報告された。

陸域環境：生育・生息環境PT

1) ダム調査横坑を小動物の生息場に活用することについて検討中であることが報告された。

2) 巣箱調査の成果として、ヤマネの獣毛を発見したことが報告された。

3) ワシタカPTのCCDカメラ観察において、餌にオコジョが含まれていたことは、その分布西限の拡大に関する重要な情報であるので、再確認が必要である。

陸域環境：植物PT

1) コア山や原石山での植生回復に表土を再利用できるように、表土を仮置きしていること及び、その所要厚さについて試験を行っていることが報告された。

#### 4．追加確認種の取り扱いについて

本委員会でのこれまでの検討・審議及び、環境省レッドリスト・レッドデータブックや岐阜県レッドデータブック等の「重要な種」の選定根拠資料の改訂・公表に基づき、

追加確認種 168種（植物 163種、哺乳類 4種、両生類 1種）を追加し、そのうち重要な種に対する影響予測及び保全対策の基本方針を了承した。

既に「徳山ダム周辺の自然環境」の中で公表した「徳山ダムにおける環境保全の一覧」に対する、公表時の前提条件が変化したこと及び今回の重要な種の追加を踏まえた、時点更新を了承した。

なお、オコジョ等の確認については、再確認後、事務局より次回委員会で報告すること。

## 5. エコマップについて

徳山ダム流域の山林が「自然な生態遷移に委ねられ、郷土種を主体とする豊かな森林環境」と認識と、これに基づく「郷土種の尊重」という観点が「自然と共生したダムづくり」を進める上で重要であるという認識を了承した。

また、各環境保全対策の性質を考慮して3枚（ありのまま残そう大作戦、引越し大作戦・郷帰り大作戦、思いやり大作戦）に分けられているエコマップを、「郷土種の尊重」に基づき、河川環境の保全、生物多様性の保全を具体化させ、環境保全対策を総括した基本構想図になるものとして了承した。

ただし、各対策の実施にあたっては、貯水池水質保全や施設安全管理上の配慮と整合が必要であることが了解された。

- 1) 「ありのまま残そう大作戦」の目標設定と実施には、公有地化後の管理を行う岐阜県との連携が必要であることを指摘した。
- 2) 「引越し大作戦・郷帰り大作戦」では、お魚引越し大作戦について、移植する先でも生息量が激減していることが理解されるように配慮した記述が必要であることを指摘した。
- 3) エコマップの目的である「郷土種の尊重」にあたって、ブラックバス・ブルーギルに代表される外来種移入に対する防衛策が重要であることを指摘した。

## 6. 今後の方針

以下の方針を確認した。

- 1) エコマップの個別具体策や課題を各プロジェクトで検討し、具体化可能なものから実施を始めること。
- 2) 実施した対策の効果の検証及びダム湛水後のモニタリング手法の検討に着手する。ダム完成前後の生物の移動に関して、マーキングによる調査方法の導入について提案があった。

## 7. 審議内容の確認

本日（3月7日）の審議結果を本メモに基づいて確認した。